

# 日本福祉大学 通信教育部

## 科目概要 2021年度

開講科目の内容については変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

[注意] 2021年度の新1年生（学籍番号にK Aが付いています）が2年次以上に履修登録できるようになる科目（学年配当が2年次以上の科目）の科目概要は、次年度以降に順次お知らせします。

[注意] 一部の開講科目には履修要件が定められています。

「スウェーデン研修」「研究論文指導」

「学びの技法Ⅱ（文書作成演習）」「精神・発達障害者の理解と共働」「認知症の人と地域包括ケア」

「アクションと生きる社会を考える」「被災者支援と福祉防災に向けた実践演習」

※「学びの技法Ⅱ（文書作成演習）」以下は、クラス制科目です。

### 凡 例

**必** 「福祉経営序論」と「スタートアップセッション」は必修科目です。「福祉経営序論」はオンデマンドかスクーリングいずれかを、「スタートアップセッション」はオンデマンドを必ず履修してください。

**社** 社会福祉士国家試験受験資格指定科目

**精** 精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

**A** AFP 資格審査試験受験資格指定科目

**新1,2全** 新1、2年次入学生全員履修科目

## (1) オンデマンド科目

オンデマンド 科目	福祉経営序論（オンデマンド版）	必	単位数	1単位
			担当教員	福祉経営学部(通信教育)教員
<p>通信教育課程の導入教育として、福祉経営とは何かを明らかにし、福祉経営を学ぶうえでの課題や方法について論ずる。講義を通じ、福祉経営学習の全体の見取図を与え、知識の追求、問題解決の探求等々に向けての学習意欲を喚起する。</p>				
オンデマンド 科目	スタートアップセッション	必	単位数	1単位
			担当教員	新川綾子、杉山 京
<p>卒業までの道筋を理解し、自分の目標や状況に応じた学習計画を立てる</p>				
オンデマンド 科目	福祉社会入門		単位数	2単位
			担当教員	山田壮志郎
<p>「福祉」という言葉は「しあわせ」を意味する。その英文であるウェルフェアは、「よりよく生きる」という意味である。福祉社会は、「いのち」「くらし」「いきがい」を大切に、人がゆたかに生きていくことを支える社会である。福祉社会を実現するためには、社会福祉をはじめとして、さまざまな分野の研究や実践が力を合わせる必要がある。これを日本福祉大学では「人間福祉複合」と呼んでいる。「福祉社会入門」では、「人間福祉複合」の観点から「福祉」への接近について学ぶ。</p>				
オンデマンド 科目	実践英会話		単位数	2単位
			担当教員	影戸 誠
<p>看護師の洋子さんがハワイの病院の視察を行うというストーリーで基本的な英会話を学ぶが、英会話だけではなく、英語を使う場面での基本情報、異文化についても学ぶ。アポイントの取り方、パスポートの取得や、英文電子メールなどの学習も行いPCの特性を生かし、単語の反復練習を行う。単語数は1500語レベル。</p>				
オンデマンド 科目	英語プレゼンテーション		単位数	2単位
			担当教員	影戸 誠
<p>英語で多数に伝える力を身につけます。東京オリンピック、外国人観光客、地域や職場での国際化、今まさに英語学習の成果が問われる場面が出てきています。これまで英語活用の場面がなかったがゆえに、「活用されなかった英語」に息吹をあたえるのがこの講義の目標です。覚えていても出てこない単語、記憶をしても使えない単語、そんな学習レベルの英語を、活用レベルに変えるがこの科目の特徴です。</p>				
オンデマンド 科目	インターネット演習Ⅰ		単位数	2単位
			担当教員	影戸 誠
<p>パソコンやインターネットなどについての基本的な内容を学習する。具体的には、ワープロ、表計算ソフトの基本的な活用その他、画像の取り扱い、ネットワークを用いたコミュニケーションなどを取り上げる。基本的な事項を確実にとおさえることにより、道具として適切に、安心して、自分なりのスタイルで有効に活用していくことができるようになることを目指す。</p>				
オンデマンド 科目	インターネット演習Ⅱ		単位数	2単位
			担当教員	影戸 誠
<p>職場や学校での魅力あるプレゼンテーションは今後ますます重要になってくる。相手に何が残ったのか、そのことが情報伝達の結果である。情報を正確に、スマートに相手に伝える。これがこの科目のテーマである。日本人は情報伝達や説明が下手だといわれるが、方法さえわかれば効果的な情報伝達が可能である。話す順番を考え、効果的な図やグラフを使い、さらに話し方のポイントを学ぶ。これを機会にその手法を是非、身につけてほしい。</p>				
オンデマンド 科目	医学概論	社精	単位数	2単位
			担当教員	日月 裕
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</li> <li>・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</li> <li>・リハビリテーションの概要について理解する。</li> </ul>				
オンデマンド 科目	心理学	社精	単位数	2単位
			担当教員	矢崎裕美子
<p>人間の心の問題を広く取り扱う心理学の知識は、福祉の現場をはじめとした、様々な人とかかわる環境において、円滑な人間関係を構築する上で重要な役割を果たす。現代社会で大きな課題となっている心の健康の問題や心理的支援の方法等を広く講義することにより、人の心を理解するための科学的アプローチに関し、基礎的な理解を得ることを目的とする。</p>				
オンデマンド 科目	社会学	社精	単位数	2単位
			担当教員	山口 宏
<p>社会学は身近なコミュニケーションから家族、地域、メディア、そしてグローバルな問題など、非常に幅広い対象を扱うもので、受講者はやや戸惑いもあるかもしれない。しかし社会制度や生活の歴史の変遷やさまざまな領域の問題を見ていくことで、福祉の現場実践を行なっていくうえでの背景知は広がっていくはずである。個々の問題や人に向き合っていくなかで、その背後にある社会の広がりを考えたり、常識とされる価値観を問い直してみたり、多様な視野を身につけることができればと思う。</p>				

オンデマンド 科目	社会福祉学 <b>【KV学生のみ】</b>	<b>社精</b>	単位数	4単位
			担当教員	明星智美
<p>本科目は、社会福祉を専門的に学ぶための導入科目の位置づけである。社会福祉の全体像をできるかぎり総合的、体系的な枠組みと方法に総合化し、理論化したものを受講生と共有し、学問的な基礎をつくることを目的とする。</p>				
オンデマンド 科目	社会福祉原論 <b>【KA学生のみ】</b>	<b>社精</b>	単位数	4単位
			担当教員	明星智美
<p>本科目は、社会福祉を専門的に学ぶための導入科目の位置づけである。社会福祉の全体像をできるかぎり総合的、体系的な枠組みと方法に総合化し、理論化したものを受講生と共有し、学問的な基礎をつくることを目的とする。</p>				
オンデマンド 科目	医療福祉ビジネス		単位数	2単位
			担当教員	後藤芳一
<p>社会構造や消費者意識の変化が進み、医療・福祉事業をめぐるニーズは、かつてない速さで変化している。国も、財政制約の下でサービスの質を維持するよう模索している。これを受け、制度の改革が急速に進んでいる。一方、従来の医療・福祉事業は、公的制度のもとで収入が保障され、外的環境に受け身で対応する傾向があった。今後は、固有の環境を踏まえた経営のあり方が事業の存続を決める。それには、サービス提供者として受け手から支持されるよう、経営を組み立てる必要がある。本講は、医療・福祉サービスの専門家が、自ら状況を判断して進路を構築できるよう、経営の基本的な枠組を整理する。</p>				
オンデマンド 科目	福祉情報技術		単位数	2単位
			担当教員	巖淵 守
<p>アシスティブテクノロジー（Assistive Technology：以下、AT）は、日本では「福祉用具」「支援技術」といわれる分野であり、「障害のある人の生活を助けるテクノロジー」を意味する。車いす、自助具、コミュニケーション機器等あらゆる生活場面で利用される福祉用具や住宅・まちづくり等の環境整備は、ATの役割でもあり、最近ではパソコンやスマートフォンなど、身の回りにおけるテクノロジーのATとしての利用も一般化しつつある。この講義では実際の相談導入・利用事例の概説を含め、特に電子・情報技術をベースとしたATの概要を学ぶ。</p>				
オンデマンド 科目	ファイナンシャルプラン作成	<b>A</b>	単位数	1単位
			担当教員	安藤朋子
<p>FP（ファイナンシャルプランニング）実務において「商品」となる提案書（プラン）について、その意義と位置付けを理解し、ライフイベント表・キャッシュフロー表・バランスシートの作成、保険の見直しや資産運用の提案といった提案書の内容と作成手順を学習する。最終的には、与えられた課題に基づき、実際に提案書を作成し、提案書作成技術の習得を目指す。</p>				
オンデマンド 科目	福祉経営論 <b>【KV学生のみ】</b>	<b>社</b>	単位数	2単位
			担当教員	綿 祐二、岩田 純
<p>福祉経営は、事業運営や人材育成・人材開発であるマネジメント領域と財務及び労務などのアドミニストレーション領域の両面から学習していくことが重要である。マネジメントでは、福祉事業体の理解、理論と実践の融合できる専門職、福祉現場のリスクマネジメント、意思決定支援の実際、人権擁護および専門職倫理、リーダーシップに関する基礎理論、集団の力学に関する基礎理論などを学修する。労務および財務では、管理運営の基礎理論、人事考課、労務環境整備、今後の経営戦略などを学ぶ。福祉経営を福祉と経営の両面から包括的にとらえていくことが重要になってくる。福祉事業体の経営に関し、基礎的な内容と、実践的な経営管理（マネジメント）の在り方を学ぶことが本講義の目的である。</p>				
オンデマンド 科目	国際福祉開発		単位数	2単位
			担当教員	斎藤千宏
<p>人々の福祉が高まるためには、政府行政、市場制度、地域社会の住民力、NGO／NPOなどの市民力が効果的に影響しあうことが必要であるとの視点に立ち、途上国において女性、教育、保健医療、障害者などの分野でどのような試みがなされているのかを、多くのゲストによる講義を通して学ぶ。</p>				
オンデマンド 科目	福祉社会開発の支援ワーク		単位数	1単位
			担当教員	吉村輝彦
<p>「福祉社会開発」の支援ワーカーは、地域社会に働きかけ、新たな福祉プログラムが開発される方向へ地域社会の関係変容を促す「コミュニティ変化の触媒役」(change agents)である。専門職として確立されているわけではないものの、実質的には、多様な立場の人々によって担われている。とはいえ、こうした役割を果たすには、やはり固有のスキルが必要である。しかし、その方法論が確立しているとはいえない。この科目では、既存のソーシャルワークの到達点と限界を踏まえ、「福祉社会開発」という概念を示し、そうした概念を踏まえた、地域をベースにした支援ワークのあり方を考えていく。現場の生きた素材を基に、様々な既存の専門職がどのような発想とスキルによって「地域」にアプローチしたかを、受講者に考えさせる。いくつかのロールモデルに関する議論を通じて、受講者自身の主体形成を促すのが目的である。</p>				
オンデマンド 科目	ふくしと減災コミュニティ		単位数	2単位
			担当教員	佐藤大介
<p>普段の暮らしを維持していくための「ふくし」と、万が一の災害時に被害を最小限にとどめるための「減災」、その減災に向けた取組みを行なう「コミュニティ」の三者は、いずれも密接に関わっている。この科目では「ふだんの暮らし」を守っていくための広域的な視点、地元の視点、一市民としての視点からそれぞれ学び、地域コミュニティが減災に果たす役割について考えていく。</p>				

オンデマンド 科目	地域福祉論 【KV学生のみ】	社精	単位数	4単位
			担当教員	山本克彦、大林由美子
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。</li> <li>・地域福祉の主体と対象について理解する。</li> <li>・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</li> <li>・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。</li> <li>・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。</li> <li>・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。</li> </ul>				
オンデマンド 科目	日本の中の多文化 【10月開講予定】		単位数	2単位
			担当教員	kirstie 祖父江
<p>日本に住んでいる外国人が年々増え、多くの自治体や市民団体の間に「多文化共生」が最近のことかのように話題になりつつある。しかし、あらゆる側面から以前から異文化を持つ者同士が日本に「共生」している。この講義を通して、日本の歴史的な多文化共生に関する政策や、以前から日本国内にいる諸々の文化的背景を持つ人たちのことを、本人の言葉などを通して学ぶ。すでに日本に存在する「多文化」に焦点を当てることによって、日本の社会を見直していく。</p>				
オンデマンド 科目	スポーツマネジメント		単位数	2単位
			担当教員	荒深裕規
<p>スポーツの現状について、国の政策から個人のスポーツ参加や支える組織団体などのスポーツを取り巻く環境、さらに心身の状況に応じたスポーツとのかかわり方などまでを幅広く学ぶ。また、スポーツの健康への効果や海外のスポーツ振興について様々なデータや実際の取り組み方などからも学ぶ。</p>				
オンデマンド 科目	社会保障論 【KV学生のみ】	社精	単位数	4単位
			担当教員	李 忻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。</li> <li>・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</li> <li>・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</li> <li>・社会保険制度の体系と概要について理解する。</li> <li>・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</li> <li>・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</li> </ul>				
オンデマンド 科目	社会保障 【KA学生のみ】	社精	単位数	4単位
			担当教員	李 忻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。</li> <li>・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</li> <li>・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</li> <li>・社会保険制度の体系と概要について理解する。</li> <li>・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</li> <li>・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</li> </ul>				
オンデマンド 科目	社会福祉援助技術論Ⅰ 【KV学生のみ】	社	単位数	4単位
			担当教員	明星智美、片岡志保
<p>ソーシャルワーク専門職に求められる、ソーシャルワークの価値・知識・技術を学ぶ。「社会福祉援助技術論（Ⅰ～Ⅲ）」のなかでも、とくにソーシャルワークの概念や実践を支える理念、ソーシャルワークに関わる専門職の役割を学ぶことを中心とする科目である。ソーシャルワークの歴史や専門職倫理、専門職制度等、今日のソーシャルワークの成り立ちと、新しい総合的かつ包括的な援助の全体像を学び、より専門的なソーシャルワークの技術論への橋渡しとする。</p>				
オンデマンド 科目	社会福祉援助技術論Ⅱ 【KV学生のみ】	社	単位数	4単位
			担当教員	末永和也、安藤健一
<p>相談援助実践は、さまざまな理論やモデル、アプローチに裏付けされた実践である。本講義では、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論や様々な実践モデルについて理解する。また、相談援助の過程と関係する知識と技術について理解する。</p>				
オンデマンド 科目	社会福祉援助技術論Ⅲ 【KV学生のみ】	社	単位数	4単位
			担当教員	鷲野明美、佐脇幸恵
<p>ソーシャルワーカーが対応する生活課題は、近年ますます多様化・深刻化しており、高度な実践力が求められるようになってきている。対人援助の専門職になりゆくためには、ソーシャルワークの価値を基盤に、理論的な裏づけのある技術を身につけ、実践できることが求められる。そこで、この科目では、社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱの学びをふまえて、ソーシャルワークの価値・知識・技術を、具体的な実践場面と関連づけながら理解することを目的とする。</p>				
オンデマンド 科目	権利擁護と成年後見 【KV学生のみ(KA学生は2年～)】	社精	単位数	2単位
			担当教員	鷲野林平
<p>認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等の判断能力が不十分な方々の権利擁護を考えるにあたり、日本国憲法の下に存在する様々な法律の関わりを知り、また、成年後見制度、虐待防止法等の権利擁護の法制度が複合的な支援システムとして位置づけられていることを明らかにしていく。さらには、関係機関の役割、具体的な事例を通して、権利擁護の現状と課題について理解する。</p>				

オンデマンド 科目	更生保護 <b>【KV学生のみ】</b>	社	単位数	1単位
			担当教員	木村隆夫
<p>社会における犯罪・非行を防止し、行った人の更生支援を実施して再犯・再非行を防止することは社会の重要な課題である。その課題の実現のためには、更生保護制度が有効に展開されることが鍵である。まず、更生保護制度についての理解を高めることを目的として、本授業は次の事項について行う。①相談援助活動において必要となる更生保護制度について。②刑事司法・少年司法分野での、他機関等との連携のあり方について。③犯罪や非行を行った人の、更生支援のあり方について。④医療観察制度について。⑤更生保護制度を支える組織、団体、専門職およびボランティアの役割について。</p>				
オンデマンド 科目	保健医療サービス <b>【KV学生のみ】</b>	社精	単位数	2単位
			担当教員	上山崎悦代、神林ミュキ
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。</li> <li>保健医療サービスにおける専門職の役割と現状、他（多）職種との連携</li> <li>協働について理解する。</li> </ul>				
オンデマンド 科目	公的扶助論 <b>【KV学生のみ】</b>	社精	単位数	2単位
			担当教員	明星智美
<p>日本国憲法が規定する人が人たるにふさわしい生活を送る権利を守る最後のセーフティネットが公的扶助制度である。社会福祉の歴史における貧困や低所得の概念、今日の貧困・低所得者を取り巻く情勢をふまえ、生活保護法および関連諸制度を通じて、人としての権利と低所得者の自立支援における専門職の役割を学ぶ。多様な貧困観、自立観、援助観があるなかで、ソーシャルワーク専門職にふさわしい貧困観、自立観、援助観の涵養をめざす。</p>				
オンデマンド 科目	就労支援サービス <b>【KV学生のみ】</b>	社	単位数	1単位
			担当教員	藤森克彦
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。</li> <li>就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。</li> <li>就労支援分野との連携について理解する。</li> </ul>				
オンデマンド 科目	福祉行財政と福祉計画 <b>【KV学生のみ】</b>	社精	単位数	2単位
			担当教員	田嶋香苗
<p>行政の骨格、法制度、行政組織の観点から福祉行財政の実施体制や実際を学ぶとともに、今日の社会福祉の中で重要な手法となっている福祉計画が登場した背景やその考え方、社会福祉における計画の意味を理解し、計画への社会福祉専門職の参加の意義を考える。</p>				
オンデマンド 科目	ヒューマンケアのための多職種連携		単位数	2単位
			担当教員	藤井博之
<p>多職種連携および多職種連携教育／学習について、「ふくしの総合大学」としての本学のコンセプトに則し学ぶ。総論的には、ヒューマンケアについて福祉経営以外を学ぶ人々との共通理解を育むとともに、多職種連携と地域連携の基礎的理念、考え方、知識等を、社会保障や地域包括ケアの概念を含めて伝える。各論としては、暮らしのさまざまな場面を切り口に、そこに関わる多様な職種や地域主体がいかに連携するかを検討する。ヒューマンケアと人々が連携・連帯することについて、外部講師のお話もうかがい、幅広く学ぶ。全体を通じて、多職種連携の必要性について認識するとともに、その困難性や課題などについて問題意識の醸成を図る。</p>				
オンデマンド 科目	認知症の医療とケア		単位数	2単位
			担当教員	中島民恵子
<p>認知症の人への適切な支援を行っていくためには、疾患別ステージ別の症状や特徴を理解することが大切である。アルツハイマー型認知症では、直近のことを忘れ、時間・場所・人があいまいになることによる生活上の困難が起こる傾向、レビー型小体認知症では幻視や歩行障害などによって生活上の困難が起こる傾向がある。共通した症状もあるが、疾患ごとに症状の特徴が異なる。一方で症状にばかり焦点をあててしまうと、認知症という枠にその人を当てはめて見てしまい、その人の本来の姿や力を見落としてしまう可能性もある。本講義では、認知症の医療とケアの基礎的知識を理解し、認知症の人、本人の尊厳を重視するケアの実現に向けた学びを深める。</p>				
オンデマンド 科目	リハビリテーション医学		単位数	2単位
			担当教員	近藤克則
<p>リハビリテーション医学には、従来の（疾患を対象とし、治癒を目的とした）医学とは異なり、障害をも対象とし、「全人的復権」（上田）を目的としているという特徴がある。現場での体験に乏しい学生諸君にも、具体的なイメージが湧きやすいよう、総論（障害の種類によらない共通部分）と各論（障害の種類別）の両面から、具体的な症例や実践例を、ビデオなども用いて紹介する。</p>				
オンデマンド 科目	発達精神病理学		単位数	2単位
			担当教員	牧 真吉
<p>発達障害という言葉が、世の中に広がっている。それを脳の障害と考えることによる思考停止が、対応を考えることに悪影響を与えてしまった。よく見ていくと、発達の遅れと考えることで理解できることが多い。発達の遅れは、多くはバラツキによるものであり、必ずしも病的現象ではない。身長や体重の違いを病気として理解しないことと同じである。ただ、こころの育ちは遅れを認めてもらえないことによって新たな負荷を受けることになる。そのことによる二次的な現象が起きてしまう。こうしたことを理解しながら付き合うことによって成長を認めることができる。その子自身の発達に丁寧に付き合うことが、今求められていることである。こうしたことを講義を通して理解することが狙いである。</p>				

オンデマンド 科目	精神障害者支援論	単位数	2単位
		担当教員	青木聖久
<p>本講義では、精神障害者が社会において、よりよく暮らすにあたって、その支援のあり方を学ぶものである。ちなみに、2011年の障害者基本法の改正において、発達障害者が精神障害者の中に含まれることになった。そのことから、本科目で精神障害者と言う場合、発達障害者も含むものである。まず、精神障害者がいかなる社会的支援を活用することによって、等身大の暮らしが実現するかについて考える。とはいえ、「精神障害者」という用語そのものが多様な解釈がなされることから、障害による特徴や課題を提示する。また、精神障害の有無に限らず、人が生き生きと暮らすにあたって、「働く」ということが重要となるため、その関係を示しつつ、一方で、就労支援等についても実践的に迫る。さらに、社会保障制度、とりわけ経済的支援について、生活支援にからめつつ、具体の諸制度を紹介しながら、精神障害者の暮らしについて検討する。そして、精神障害者の「働く」を含めた暮らしの実際や経済的支援等を通して、生活支援とは何か、を明らかにすることが本講義の目的である。</p> <p>●精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</p>			
オンデマンド 科目	アディクションとソーシャルワーク	単位数	2単位
		担当教員	田中和彦
<p>「何かに依存している」という言葉は、ネガティブな印象をもって語られることが多く、支援の現場においても表面的な問題の対処に苦慮し、結果として医療・保健・福祉の領域で「依存症は難しい」「依存症にはかかわりたくない」という忌避感情の強い現状がある。しかしアルコール健康障害対策基本法施行（2014年）、薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部執行猶予に関する法律施行（2016年）、ギャンブル等依存症対策基本法（2018年）、精神保健福祉士養成課程の養成の在り方等に関する検討会中間報告書における依存症支援体制整備の必要性（2019年）というように、依存症対策及び依存症への支援の必要性は広がりを見せ、ソーシャルワークにおいても実践の質の向上が急務である。本講義では依存症をアルコールや薬物の物質依存にとどまらず、行動嗜癖を含んだより幅広い概念である「アディクション」ととらえ、アディクションに対するソーシャルワークの視点とアセスメント、支援の方法について講義し、アディクションからの回復と回復へのかかわりについて考察を深めていく。</p>			
オンデマンド 科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ 【KA学生のみ】 社精	単位数	2単位
		担当教員	明星智美、田中和彦
<p>1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。2. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p> <p>本科目は、日本におけるソーシャルワーク専門職である社会福祉士、精神保健福祉士の法的な根拠、定義、位置づけを理解することを目的とする。さらには、社会福祉士・精神保健福祉士の実践の基盤としての「ソーシャルワーク」について、その形成過程、価値規範、倫理、ソーシャルワーク実践についての理解を深め、ソーシャルワーク実践のもととなる思考、視点、そしてソーシャルワーク実践の言語化をしていくための基盤形成を目指す。</p>			
オンデマンド 科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 【KA学生のみ】 社	単位数	2単位
		担当教員	明星智美、田嶋香苗
<p>1. 社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>			
オンデマンド 科目	アディクション領域における経験を有する援助者の支援論	単位数	2単位
		担当教員	市川岳仁
<p>アディクションからの回復においては、セルフヘルプが大きな役割を果たすと言われている。かつて治療や援助の客体（対象）でしかなかったアディクトが、セルフヘルプの関係性の中で、ある種の援助役割を獲得しながら主体的に人生を再著述していく姿はダイナミックであり、感動的である。そして、当事者性（経験）を生かした援助の仕事に就く人も多い。だが、当事者としての経験は、それだけを以って十分とは言えない。クライアントの多様性を担保するためにも、自分自身が多様性に関わる必要がある。この講義では、リカバリー当事者が援助者として機能する際に経験する「歓び」「葛藤」「変容」について、その過程を事例で示しつつ、「学び」を通じた多元的自己発展について論じる。</p>			
オンデマンド 科目	障害者福祉論 【KV学生のみ】 社精	単位数	2単位
		担当教員	綿 祐二、川口真実
<p>本講義は、障害者に対する支援をミクロ、メゾ、マクロの視点でとらえ、障害者施策、支援、態度、方向性について学ぶ。</p> <p>●障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、障害者福祉現場における課題や人材養成に関する講義を行う。</p> <p>●障害者福祉施設で相談援助業務に従事した経験を持つ教員が、障害者福祉に関する講義を行う。</p>			
オンデマンド 科目	高齢者に対する支援と介護保険制度 【KV学生のみ】 社	単位数	4単位
		担当教員	本間 萌
<p>「高齢者」のイメージを統計資料や制度政策を通して理解し、超高齢社会における諸課題及び高齢者に対する支援について多面的・多角的に検討する。また、高齢者に対する直接的な支援の理解にとどまらず、地域福祉の視点や社会開発までを意識した、超高齢社会で求められるソーシャルワーク実践についての理解を深める。</p>			
オンデマンド 科目	児童福祉論 【KV学生のみ】 社	単位数	2単位
		担当教員	安藤健一
<p>児童や家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢や福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待及び家庭内暴力等を含む)について理解する。また、児童福祉法を中心として児童・家庭福祉の発展過程と制度を理解し、児童と家庭への支援に関連する事項について学ぶ。</p>			

## (2) テキスト科目

テキスト科目	民法	単位数	4単位
		担当教員	近藤充代
民法は、市民間の財産関係、取引関係、身分関係を規律している法律である。本講では市民生活にとって身近である消費者問題を題材に、現代社会における民法の役割を理解するとともに、法的な思考方法を修得することをめざしたい。具体的には、消費者被害の救済という観点から、民法総則（制限能力者制度、意思表示等）、契約の基礎（契約の成立、効力、解除等）を学習した上で、消費者契約の取消権やクーリング・オフなどを規定する消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法等の民法特別法（消費者法）についても理解を深めたい。			
テキスト科目	日本史	単位数	4単位
		担当教員	曲田浩和
通史的叙述を柱としつつ、視点・論点についての解説を加えたテキスト（学習指導書「日本史」を含む）を主要教材としながら、歴史的事象が起こった背景・原因を踏まえ、その結果を考えていく。歴史を時代の流れで捉え、個別事象を覚えることを目的とせず、社会のなかで歴史的事象を位置づけることを考える。単に昔のことを学習するだけでなく、人間の行為として、現代につながる視点を大切にしながら、歴史的理解を深める。			
テキスト科目	生物学	単位数	2単位
		担当教員	水野暁子
生物の基本構造である細胞を中心として、生物の基本的な構造と機能について理解する。特に、人間とは違った構造を持つ植物について、成長、水や養分の吸収、情報伝達などの生理的機能と、細胞や組織の構造との関わりについて詳しく学習する。植物がどのような構造と機能を基にして、環境に対する適応や反応を行っているかを認識することで、酸性雨などの環境問題について考えることができるような、基礎的な力をつける。			
テキスト科目	社会福祉調査論 <b>【KV学生のみ(KA学生は2年～)】</b> <b>社</b>	単位数	2単位
		担当教員	訓覇法子、川床憲一
社会福祉が対象とする領域は、国（マクロ）、地域や組織（メゾ）、個人・家族（ミクロ）と広範囲であり多次元に及ぶ。したがって、社会福祉分野の調査・研究には、多角的視野や複合的調査・研究方法、分析理論が必要となる。社会調査は19世紀のヨーロッパの貧困調査に遡り、科学及び実践としての社会福祉と重要な接点をもつ。社会調査の一分野をなす社会福祉調査は未発達分野であるが、社会福祉の対象が多様化する中、科学的根拠に基づいた実践を進展させるにあたって重要な意味をもつ。講義の目的は三つあり、①社会調査の意義と目的及び方法の概要、②統計法の概要や社会調査における倫理及び個人情報保護、③量的及び質的調査の方法に関する基礎知識を習得することである。			
テキスト科目	学びの技法Ⅰ（文書の読解と作成） <b>新1、2、全</b>	単位数	2単位
		担当教員	松林 愛、水野節子
大学生がA4用紙1～2枚程度の論理的な文書を読解する場合と作成する場合に必要なことがらを理解する。論理的な文書には、正しい文法に基づいていること、適切な語彙を利用すること、適切な推論の方法を利用していること、主張と根拠を明確に示していること、できるかぎり確かな根拠を示していること、等が必要である。			
テキスト科目	学びの技法Ⅱ（文書作成演習） <b>【クラス制(KA学生は2年～)】</b>	単位数	1単位
		担当教員	松林 愛、新川綾子、水野節子
A4用紙1～2枚程度の論理的な文書（小論文、レポート等）の読解と作成の能力を、問題の演習と「添削指導」を通じて修得できるようにする。この「添削指導」とは、【nfu.jp】上で提示される添削課題（レポート）に対し、決められた文字数で解答したレポートを提出し、【nfu.jp】上で教員から添削指導を受けるものである。「学びの技法Ⅰ（文書の読解と作成）」で学んだ文書作成のルール等に基づき、適切な文章の表現や展開等を学ぶことができる。「学びの技法Ⅰ（文書の読解と作成）」の発展科目のため、同科目の単位修得者が履修できる科目とする。			
テキスト科目	経済学	単位数	4単位
		担当教員	上田和宏、谷地宣亮
私たちの社会では、家計、企業、銀行、政府などの組織がさまざまな経済活動を自国の中だけでなく、外国との間で行っている。経済について勉強するにあたり、そうした活動がどのように関わり合い、結果としてどのような経済状況が生み出されるのかについて考えることが重要である。本科目では、そのために必要な経済学の基礎的な理論を学び、理論的に考える練習を行う。同時に、現実の経済についての理解を深めるため、日本経済の姿についても考えてゆく。			
テキスト科目	経営学	単位数	4単位
		担当教員	柳 在相
経営学の基礎を理解するためには、マネジメントという視点にたつて、経営目標の達成に向けた効率的なマネジメントのプロセスを理解するとともに、変貌する経営環境に適応していくプロセスについても理解することが求められる。経営環境の変化と組織の存続、戦略計画の企画と実行、人と組織のマネジメント、イノベーションといった経営学の中心課題について学習する。そのうえで、これからの企業経営をはじめ、ヘルスケア産業やビジネスの展開、医療・福祉や非営利組織、行政組織などにおけるマネジメントの問題を検討していくように努める。			
テキスト科目	簿記	単位数	2単位
		担当教員	新谷 司
簿記とは、企業の経営活動を計数的に記録し、それを集計して企業の経営成績や財政状態を知るための計算処理技術である。最初に、簿記の基本的仕組みを理解する。次いで、商品売買業を営む個人商店における期中取引の仕訳と一連の決算整理事項の仕訳について習得する。仕訳例や設例を利用して簿記知識の効率的習得を目指す。			

テキスト科目	マーケティング	単位数	4単位
		担当教員	小木紀親
<p>本講義の目的は、マーケティング理論を習得するとともに、市場における競争及び差別化の概念と、実際かつ今日の企業等のマーケティング戦略の仕組みを多面的に理解していくことにある。具体的には、マーケティング戦略の4つの軸（製品戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、プロモーション戦略）を中心として、今日の企業及びその他の組織のマーケティング活動や市場における多様なマーケティング現象を理解・考察し、それらを通じてマーケティングの基礎と応用を学んでいきたい。</p>			
テキスト科目	財務会計	単位数	4単位
		担当教員	新谷 司
<p>財務会計は、会計基準や会計慣行に規制され、企業の財政状態や経営成績に関する情報を作成し外部の利害関係者に報告することを意味する。会計規制の体系、財務諸表の様式、棚卸資産会計、固定資産会計、有価証券会計、引当金会計、負債会計、純資産会計、資産の評価基準、費用・収益の認識基準、連結財務諸表などを取り上げる。</p>			
テキスト科目	管理会計	単位数	2単位
		担当教員	内野一樹
<p>管理会計は、企業などの営利組織の内部で、戦略や計画の策定、経営管理者の目標設定と実績評価に役立つ情報を提供してきたが、今日では病院、福祉施設、文化団体等の非営利組織でも導入が進んでいる。本講は、4つの単元から構成される。単元Ⅰ管理会計の基礎では、本講の管理会計のフレームワークについて明らかにする。そこでは、管理会計の基本体系、原価計算との関係、経営組織との関係が取り上げられる。単元Ⅱ業績管理のための管理会計では、利益管理に焦点が当てられる。利益管理は、企業が存続していくのに必要な利益を獲得するために、計画を設定し、その結果を統制するという2つの側面が含まれている。そこでは、伝統的な原価管理、在庫管理、予算管理、短期利益計画が取り上げられる。単元Ⅲ意思決定会計のための管理会計では、経営管理者の意思決定に焦点が当てられる。経営管理者の意思決定は、企業の将来に進むべき方向を決めることであり、関連する情報を集めて、分析し、評価を下さなければならない。そこでは、業務（執行）的意思決定、戦略的意思決定、経営戦略への道筋の可視化が取り上げられる。単元Ⅳ管理会計の展開では、新しい動向について各論的に明らかにする。いずれも従来管理会計上の問題を克服するために提唱されたものである。そこでは、活動基準原価計算、原価企画、ライフサイクル・コスト、品質原価計算が取り上げられる。</p>			
テキスト科目	労働法	単位数	4単位
		担当教員	渋谷典子
<p>産業構造の変化、経済のグローバル化、急速に進む少子高齢化に伴う労働力の減少等、労働者の置かれる環境は常に変化を繰り返している。労働法もその変化に対応すべく、その姿を変容させている。労働基準法は制定後に何度も改正を繰り返し、男女雇用機会均等法や労働者派遣法の大幅な改正がなされ、労働契約法も制定された。そして、2018年には「働き方改革関連法」が成立した。この変化し続ける労働法の「今」に向き合い、「今」につながるプロセスを学ぶことがこの講義の目的である。そして、「今」は、「未来」へつながり、その「未来」における労働法の姿も思い描くことができるはずである。これまで蓄積されてきた労働法の判例と学説について学び、労働法の基本的な知識と考え方を学ぶ場として、本講義を活かしていただきたい。</p>			
テキスト科目	経営組織と戦略	単位数	4単位
		担当教員	張 淑梅
<p>本テキストは、組織とは何か、優れた組織の動き方、特徴を、組織論と経営戦略論の視点から学ぶことを目的とする。まず現代社会の基礎的構成要素としての組織の行動や構造、変化のメカニズムを説明する。次に組織を環境との相互作用をもつオープンシステムと認識し、激動する環境の変化に対応するための経営戦略、組織変革、さらに情報革命のもとで展開されつつある新しい組織と戦略について事例を交えて論じていく。</p>			
テキスト科目	ベンチャー経営	単位数	4単位
		担当教員	柳 在相
<p>日本におけるベンチャー企業を取り巻く経営環境に着目し、とりわけアメリカとの比較を通して、いかにしてより多くのニュービジネスを生み出すかについての議論を展開する。そして、セコムなどのような目覚ましい成長をおさめているベンチャー企業に焦点をあて、その創業から今までの成長プロセスを詳細に考察していく。これらのベンチャー企業の成長プロセスにはどのような阻害要因が存在し、それぞれの阻害要因をいかにして克服することができたかに注目することによって、ベンチャー企業の経営（企業家精神及び戦略的発想、事業仕組の構築、競争優位の確立、組織文化の形成など）についての理解を深めるように努める。</p>			
テキスト科目	人的資源管理	単位数	4単位
		担当教員	飛田正之
<p>企業の経営活動に必要な「ヒト」、つまり人的資源の管理について学ぶ。企業におけるさまざまな人的資源管理の制度、労働や雇用に関する実態を理解する。さらには、実際に企業、職場ではどのような人材の管理が行われているのかを、さまざまな調査をもとに考察を深めていく。</p>			
テキスト科目	医療経済学	単位数	2単位
		担当教員	大内講一
<p>1980年代以降、公的支出を抑制するため患者負担が拡大されてきた。その一方で医療を成長戦略の中心に据えて景気浮揚を図ろうとする政策的主張もある。本科目では、医療費の規模と負担構造、医療の経済効果を理解し、「持続可能な国民皆保険」を考察する。</p>			
テキスト科目	医療福祉経営論	単位数	4単位
		担当教員	中島明彦
<p>医療福祉施設の経営は企業の経営理論をそのまま当てはめようとしても困難である。その理由は医療福祉サービスの持つ専門性や公共性という特性、サービスを提供する専門職の自律性、組織が専門職組織であること、事業が制度や政策に大きく依存することなどがあげられる。本講ではこれらを踏まえて医療福祉経営の基本的視座を提供しようとする。</p>			

テキスト科目	非営利マーケティング論		単位数	4単位
			担当教員	井上崇通
<p>非営利マーケティングとは、主として非営利組織に一般企業のマーケティングの戦略および手法の視点を取り入れ、各非営利組織独自のマネジメント活動に役立てることを意図するものである。しかし、非営利組織は一般企業とは当然異なるものであり、非営利組織のなかでもその特性などによりマーケティングの戦略および手法の取り扱いは異なる。特に、講義では、そうした点に鑑み、各非営利組織の分類から始め、各々に適するマーケティングの戦略および手法、非営利組織を巡る動向を論じていく。</p>				
テキスト科目	シルバーファイナンス		単位数	2単位
			担当教員	川床憲一
<p>シルバーファイナンスという言葉は聞きなれない単語であろう。直訳すると、「歳寄りの財政」とでもなるが、ここでは「高齢者に必要な金融の知識やそれに関連する税金、医療、保険、年金などの知識をトータルで身につける科目」と規定したい。「人生は有料道路」という言葉もあるが、生きている限り散財は避けられない。如何に上手に節約するかも課題の一つである。節約と吝嗇は違う。本科目で堂々と、そして楽しく節約することを学んでほしい。</p>				
テキスト科目	ファイナンシャルプランニング総論	A	単位数	1単位
			担当教員	安藤朋子
<p>FP（ファイナンシャルプランニング）とは何か、FPの歴史と現状や社会的役割、手法と知識、諸領域、コンプライアンス等を学ぶ。また、ファイナンシャルプランナーの業務内容や進路、具体的なスキルの身に付け方についても学習する。FPの技術を活かせる業界やそれを取り巻く環境を知ることにより、ファイナンシャルプランナーとしてのキャリアイメージを明確にする。</p>				
テキスト科目	金融資産運用設計	A	単位数	2単位
			担当教員	栗本修己
<p>個人のライフプランを実現するためには、財政上の裏づけとして資金が必要になる。必要な資金は具体的な金融商品で管理・運用する必要が生じるが、そのためには商品を選択するための周辺知識が必須となる。そこで、経済・金融動向の見方、預貯金、金融類似商品、投資信託、債券、株式、デリバティブなどの商品知識とともに、預金保険制度や金融商品販売法などのセーフティネット、少額投資非課税投資（NISA）、ポートフォリオの組み方を学び、金融資産の管理運用法を習得する。</p>				
テキスト科目	不動産運用設計	A	単位数	2単位
			担当教員	安藤朋子
<p>不動産は、生活の本拠として、あるいは資産として、ライフプラン上の重要な位置を占める。この科目では、不動産について、売買、貸借、所有、活用、投資など様々な場面で必要となる広範囲な知識を学習する。具体的には全体を3つの領域に分け、まず不動産の見方と不動産に関わる様々な法律の規定を次いで不動産に関わる税金の種類と内容、不動産投資・有効活用の手法を学び、生活者が不動産と上手につきあっていくための実用知識を習得する。</p>				
テキスト科目	ライフプランニングと資金計画	A	単位数	2単位
			担当教員	加藤美晴
<p>ファイナンシャルプランニングの中心的な科目である。学習領域は大きくライフプランニングとリタイアメントプランニングに分かれる。前者では、ライフプランニングの考え方、家計のキャッシュフロー分析手法に始まり、ライフプラン上の重要テーマである住宅資金設計、教育資金設計等について学ぶ。後者では、労働保険、医療保険、公的年金という各種の社会保障制度の仕組みを理解し、老後の資金設計の考え方を習得する。</p>				
テキスト科目	リスク管理と保険	A	単位数	2単位
			担当教員	加藤恵子
<p>現代社会におけるリスクには様々なものがある。ファイナンシャルプランニングにおいては、それらのリスクに対して保険という手段を用いてリスクを移転するという保障・補償設計が必要となる。この科目では、その観点から、リスクマネジメントの考え方、保険制度、生命保険と損害保険の仕組み、それぞれの分野の具体的な商品の種類と内容を学び、保険を活用したリスクマネジメントの手法を習得する。</p>				
テキスト科目	タックスプランニング	A	単位数	2単位
			担当教員	角田圭子
<p>ファイナンシャルプランニングにとって、可処分所得を把握する上で税の知識は欠かすことができない。初めにわが国の税制を体系的に理解し、なかでも個人のライフプランニングに欠かせない所得税を中心に、個人住民税、個人事業税、法人税、法人住民税、法人事業税、消費税等を学ぶ。特に所得税についての知識は重要であるため、その仕組みから、税額計算、申告納付までを体系的に学び、最終的には具体的な税額計算ができるようになるまで理解を深める。</p>				
テキスト科目	相続・事業承継設計	A	単位数	2単位
			担当教員	佐藤正明
<p>ライフプランの終着点である相続時における遺産分割と、それに伴う税務上の取り扱いを学習する。相続はすべての人に共通のライフイベントであるが、知識不足からトラブルになることが少なくない。そこで、まず相続人の範囲と相続分、相続を放棄する場合の手続き、遺言の作成方法など、民法の知識を学習する。これを踏まえて、遺産額が一定規模以上になると相続税が課税され、相続税対策が重要なテーマとなるため、相続税の基本的な仕組みを理解し、節税対策の考え方もあわせて学習する。</p>				
テキスト科目	NPO論		単位数	4単位
			担当教員	雨森孝悦
<p>この科目では、履修者が市民社会組織としてのNPOについて、基礎的な知識を得ることを目的とする。NPOは民間非営利組織の一種なので、民間非営利組織にどのような種類があり、それらにどのような違いや共通点があるのかがわかるようにする。しかしそれに止まらず、NPOがなぜ存在するのか、実際にその運営に関わる時にどのような問題に遭遇し、どう対処すべきかについての具体的な方法についても考えてもらう。</p>				

テキスト科目	コミュニティマネジメント	単位数	4単位
		担当教員	生江 明
この科目では、内外の様々なコミュニティ・マネジメントの事例を通して、コミュニティとは何であるのか、そしてそのマネジメントとはいかにあるべきなのかを考察する。社会的存在である人間たちが、そのより良き人生の実現のために自然と社会資源をいかに組織化し、豊饒化していくかというプロセスは、行政サービスの客体としての人間ではなく、コミュニティのマネジメント主体としての人間たちを、これらの事例の中に、そして、その社会哲学の中に、見出すことになるだろう。それはコミュニティのお客ではなく担い手としてコミュニティを新たに生んでいくプロセスを学ぶこと。			
テキスト科目	地域環境計画	単位数	4単位
		担当教員	阿蘇裕矢
人間の生活と環境について考察し、その調和を図っていくためのマネジメント方策について論ずる。特に、コミュニティレベルから、都市・農村、地域空間レベルにおける環境問題に着目し、主としてこれまでに行われてきた環境計画の方法を学ぶとともに、人間にとって求められる環境のあり方について考察を行う。さらに、空間のレベルや環境の特性に合わせた環境計画の手法、施策、政策等について論じ、これからの地域空間における環境計画のめざすべき方向、主体間の連携や合意形成等のあり方について考察する。			
テキスト科目	国際開発	単位数	4単位
		担当教員	雨森孝悦
この科目は、開発途上国における貧困緩和、環境保全、平和構築などを通じて、開発の主人公たる一人ひとりの人間の生活を豊かで安全なものにし、能力の向上が図られるような開発のあり方について学習するのが目的である。一言でいえば、途上国における社会開発の概論である。			
テキスト科目	災害復興のための制度と法	単位数	2単位
		担当教員	岡本 正
災害時に被災者が抱える課題は、食料、物資、医療等のニーズだけにとどまらない。これまでの日常生活が突如として脅かされ、生活を再建していくうえでありとあらゆる悩みが一挙に押し寄せられる。住まい、仕事、家庭などのあらゆる場面で、お金とくらしに関わる課題が多数浮かび上がる。それらを解決していくためには、被災者への経済的かつ精神的な支援や寄り添い活動が必要とされる。まずは希望をもって、一步を踏み出し、他の機関や士業と連携して支援をするきっかけをつくっていくことが何よりも重要になる。すなわち、被災者に対して専門家が果たすことができる役割とは、被災者に有益で役立つ生活再建や支援の情報を整理して提供することから始まる。そして、個別の課題に応じて、情報提供をし、支援制度の活用や手続きに誘導し、他の専門士業へのつなぎを行い、あるいは協働していくことで、被災者の生活再建の達成を目指すことになる。このような災害時における支援活動は、ソーシャルワークそのものであり（災害ソーシャルワーク）、ソーシャルワーカーにとって重要な役割となる。本科目では、まず、被災後に被災者が抱える悩みを具体的な事例とともに概観し、その課題を解決するために設けられている支援制度やしくみ、その根拠となる法律について基本的かつ実践的な知識を学んでいく。そのうえで、災害後の生活や被災者を支えるために、ソーシャルワーカーとしてどのように活動できるかや、他の領域の専門家との連携やコーディネーターとしていかなる役割を果たすことができるのか等についても学びを深める。			
テキスト科目	環境論	単位数	2単位
		担当教員	斎藤千宏
今世紀半ば（2050年代）には地球上から食料不足や飢餓といった問題は解決するだろうとされている。他方で、今世紀末になっても解決が困難とされるのが民族対立であり、またジェンダーの問題、そして温暖化に代表される地球レベルの環境問題である。今日を生きる我々にとって基本中の基本の学習課題が「環境問題」であるといつて過言ではなからう。本科目では、入門レベルとして、環境の身近なテーマから地球規模の課題まで幅広く学んでいく。			
テキスト科目	精神医学からみたアディクション	単位数	2単位
		担当教員	常岡俊昭
精神医学において「アディクション治療」はここ数年で革命が起きている。底つき体験が必須と言われたアルコール依存症治療にも、早期発見・早期介入の必要性が指摘されている。処方薬依存・市販薬依存の問題は、薬物依存症を司法の範疇と考えることを不可能にした。ギャンブル障害など精神医学の重箱の隅でほとんど誰も認識していなかった疾患が、IR 法案によってアルコールや薬物とならぶ依存症として治療の必要性が広まった。また、これらのアディクション問題には、うつ病・統合失調症・発達障害など多くの一般精神科が対象としてきた疾患が合併することが明らかになってきた。これら「依存症／アディクション」の治療対象の変化・広がりは、今まで専門病院だけで人知れず行われていた依存症治療を、一般精神科病院でも最低限は行わざるを得ないものへと変化させた。また SBIRTS（エスパーツ：Screening：飲酒スクリーニングテスト、Brief Intervention：簡易介入、Referral Treatment：専門医療機関、Self-helpgroup 自助グループ）に代表される医療機関と自助グループの連携の必要性も再度指摘されている。一方で、すべての医師・病院が革命に対応できているわけではなく、対応できるか否かは医師やPSW など個人の動きに頼っている部分も大きい。本講義の目的は、専門病院でない精神科病院であっても、地域資源が不足している地域であっても、その場その場で持続可能なアディクションへの最低限の介入方法を自ら模索・構築できる能力を育成することにある。			
テキスト科目	福祉文化論	単位数	2単位
		担当教員	小椋喜一郎
社会福祉の分野で、文化という言葉の定義は不十分である。しかしながら、文化を生活としてとらえるならば、介護保険法によって医療と福祉が同じ法体系の中に把握されようとしているとき、日本における福祉文化の今をどう読み解くかの課題は大きい。ここでは歴史学を初めとして民俗学などさまざまな人文科学分野の成果を取り入れながら、社会福祉の分野における文化とは何か考えていく。また、近年施設の生活の中で、利用者若し職員とのコミュニケーションのギャップが生まれてきている。このような現状の中に、福祉文化を介在させることで、両者のギャップの解消を図ることも併せて意図している。			
テキスト科目	健康格差社会	単位数	2単位
		担当教員	近藤克則
本講義では、「健康長寿」に影響する社会的要因の解明に取り組む「社会疫学 (social epidemiology)」が明らかにしてきたことを元に、私たちの健康・幸福 (well-being) がどのような要因によって決まるのかを考える。日本にどの程度の「健康格差」が見られるのか、なぜ健康格差が生まれるのか、その背景や原因、健康によい環境をつくる「ゼロ次予防」、そのための方法などについて考える。			

テキスト科目	福祉社会システム論	単位数	4単位
		担当教員	訓覇法子
<p>講義の目的と目標は二つある。まずは、①世界先進国における社会政策の国別による分類（モデル）を軸にして、国際比較研究的視点から日本の福祉社会システムを考察するとともに分析する。二つ目は、②高齢者人口の増加により、世界の先進国が高齢者社会に直面する現在、福祉国家・社会システム分析において介護国家・介護社会というあらたな概念が必要とされるが、介護社会としての日本の社会保障、福祉社会システムの現状分析を試み、国際比較研究的視点から有意義と思われる概念や理論の考察を行う。同時に、国際比較に必要な条件と手法を習得する。</p>			
テキスト科目	医療政策論	単位数	4単位
		担当教員	李 忻
<p>日本の医療制度は超高齢社会を迎えて、大きな転換期にある。「いつでも、どこでも、誰でもが安心して医療をうけられる」という目標の実現が、高齢化と低成長経済の下で困難となっているからである。医療サービス自体もかつての感染症時代から成人病・生活習慣病へと推移する中で、公平と効率の観点から医療制度に関わる「人」「物」「金」「情報」のすべてにおいて、その改革が迫られている。臓器移植や未承認新薬等に象徴される高度先進医療への大きな期待とともに、高齢者の長期ケアのための医療と福祉を接合した介護保険制度の創設と普及など、患者の自己決定やQOL（生活の質）の向上などの新しい動きをふまえて、医療政策のあり方は国民の健康の維持と増進に大きく影響している。本講義では、医療政策の展開と今後の課題・方向について学んでいく。</p>			
テキスト科目	医療・福祉サービス論	単位数	2単位
		担当教員	近藤克則
<p>本講義では、医療福祉サービスのあり方やその質を高める方法、それらを考える上で必要な基礎知識を学ぶ。健康に関連するQOL（Quality Of Life、生活・人生の質）や、国際生活機能分類（ICF）、ケアマネジメント、チームマネジメント、福祉事業者、政策レベルまで取り上げる。これらすべてにおいてマネジメントの考え方が有用であること、一方で医療福祉における特異性を学ぶ。</p>			
テキスト科目	死生学	単位数	2単位
		担当教員	片山善博
<p>『生と死について学ぶ—死生学』自らの死を経験してきたものはいない。しかし誰もが確実に死と直面することになる。それは、他人の死、かけがえないものの死、死に逝く自分というかたちで。先人たちはそうした死と直面し、そこからさまざまな思想や世界観を生み出してきた。死がタブー化されたといわれる現代社会において、彼らの足跡をたどりながら、同時に、新しい死生観を考えていくことは、必要なことであり、有意義なことであろう。本講義では、死生学の歴史と現状、さまざまな死生観とその変遷、延命・生殖・安楽死などをめぐる生命倫理の考え方を取り上げて、死について学ぶことの重要性とその積極的な意義を示したい。「死を学ぶこと」は「生きることを学ぶこと」とであるという立場から、人間としての生きることの〈価値〉について考えたい。</p>			
テキスト科目	生涯学習論	単位数	2単位
		担当教員	中川晴夫
<p>生涯学習の本質は2つの側面を持っている。学習機会としては「生涯にわたる学習」（生涯継続学習）であり、学習目的としては「生涯のための学習」（生涯設計学習）である、という観点を重視する。その場合、生涯継続学習の基調は、人びとが生涯という時間を共有することの重要性、つまり世代共生の意義を理解することであり、生涯設計学習の基調は、人びとが地域という空間を共有することの重要性、つまり地域共創の意義を理解することである。以上、世代共生と地域共創を中心に生涯学習の理念と本質を理解することをねらいとする。</p>			
テキスト科目	高齢者の心理	単位数	2単位
		担当教員	山口智子
<p>急速な高齢化が進み、高齢者の心理への関心が高まっている。また、高齢者支援において、高齢者個々人のニーズにこたえるためには、支援が必要な問題の理解だけでなく、高齢者の性格、言動、経歴、家族関係などを含めた個人理解が必要である。この科目では、①高齢者の心理を理解する視点を学び、②加齢によるさまざまな心理機能の変化を理解すること、③老年期におこりやすい心理的問題を理解すること、④高齢者に対する心理的援助方法を考えることを目標とする。</p>			
テキスト科目	産業組織心理学	単位数	2単位
		担当教員	山口智子
<p>超高齢社会となった現代、「働く」とはどのような営みであろうか。長寿化、価値観の多様化、情報化、グローバル化などが進むなかで、働く人びとをめぐって過重なストレス、うつ、休職、過労死などさまざまな問題が生じている。また、高齢化に伴い、介護、看護のニーズが増大しているが、介護職や看護職として働く人びとの心身の不調や人材不足が社会問題となっている。さらに、対人援助職は、組織の中で、メンタルヘルス対策の企画立案や推進の役割を担うことが求められることもある。そこで、本講義では、特に、対人援助職の領域に焦点を当てて、働く人びとのストレス、キャリア、メンタルヘルス不調、メンタルヘルス対策などについて考えたい。</p>			
テキスト科目	精神医学 <b>【KV学生のみ】</b>	単位数	4単位
		担当教員	堀 未来
<p>精神保健福祉士の活躍分野の一つが精神医療分野である。そして、精神医療とは、精神医学の社会的適応として出発しつつ、現在では多様な専門性を持ったさまざまな職種が共働する場となっている。そのような精神医療の現場において、福祉という土壌から生まれてきた精神保健福祉士の専門性をしっかり維持しつつ、他の職種と共働するための共通の基礎知識が精神医学であると言える。多様な職種がしっかりしたチームワークを発揮し、より良い精神医療を実践できるために、共通知識としての精神医学をしっかり身に付けてもらいたい。</p>			

テキスト科目	精神保健福祉相談援助の基盤 【KV学生のみ】 精	単位数	4単位
		担当教員	行實志都子
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む。）と意義について理解する。</li> <li>社会福祉士の役割と意義について理解する。</li> <li>相談援助の概念と範囲について理解する。</li> <li>相談援助の理念について理解する。</li> <li>精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。</li> <li>精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。</li> <li>精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。</li> <li>精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</li> </ul>			
テキスト科目	精神保健福祉に関する制度とサービス 【KV学生のみ】 精	単位数	4単位
		担当教員	金子毅司
<p>本科目では、精神障害者を取り巻く制度やサービス、及び、精神保健福祉法に至るまでの変遷について理解することを目指す。また、精神保健福祉に関する主要な法律と施策の概要や、精神保健福祉に関する社会保障制度、さらには、フォーマル・インフォーマルな社会資源について学ぶ。加えて、更生保護制度・医療観察法の概要と実際、各々の制度と精神保健福祉との関連について理解できるようにする。そして、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査について学ぶ等、多角的に精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解することを目的とする。</p>			
テキスト科目	精神保健学 【KV学生のみ(KA学生は2年～)】 精	単位数	4単位
		担当教員	足立孝子
<p>健康の定義、すなわち精神的な健康とは、精神疾患が存在しない以上の事柄であるということを理解する。さらに、精神保健は、社会経済のおよび環境要因、行動（依存・暴力など）によって左右されることを明らかにする。それらを踏まえて、精神保健はどのように強化されるべきか考える。また、精神障害を抱えた人が地域で安心して自立した生活（ウェルビーイング）を促進するために、精神保健福祉士が担うべき役割について学習する。</p>			
テキスト科目	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 【KV学生のみ】 精	単位数	4単位
		担当教員	山田妙韶
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健医療福祉の特性（精神科医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。</li> <li>精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解し、精神科リハビリテーションの知識、技術及び活用する方法を理解する。</li> <li>精神保健福祉士として必要な相談援助の基礎理論と技術を理解する。</li> </ul>			
テキスト科目	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 【KV学生のみ】 精	単位数	4単位
		担当教員	小沼聖治
<p>精神障害者への支援を行う上で、精神保健福祉士がどのような援助理論をもとに支援を行っているかを理解するとともに、その実際的な援助の展開について学ぶ。また対象者を生活者として捉える視点を醸成し、その生活を支援していくための援助技術について理解を深める。</p>			
テキスト科目	精神障害者の生活支援システム 【KV学生のみ】 精	単位数	2単位
		担当教員	高木善史
<p>本科目では、精神障害者の概念を理解したうえで、精神障害者の暮らしの実際、精神障害者の生活と人権、そして、精神障害者の生活支援システムについて学ぶものである。加えて、精神障害者の居住支援、雇用・就業支援、行政における相談援助について理解を深めることを目指す。また、支援対象者には、精神障害者の家族も含めるものとする。さらに、精神障害者支援において重要となる、人々のプロセスや社会的背景にも着目しながら、専門職のあり方、当たり前が人が社会で暮らすとは、について理解することを目的とする。</p>			

### (3) テキスト・オンデマンド科目

テキスト・オンデマンド科目	社会福祉法人会計	単位数	4単位
		担当教員	新谷 司
<p>措置制度から介護保険制度へ制度変更された2000年度に、全ての社会福祉法人に原則的に適用される会計基準として、(旧)社会福祉法人会計基準が制定されている。その後改訂を重ねられ、現在の社会福祉法人会計基準は、2016年3月に省令化された会計基準である。本講義ではこの社会福祉法人会計基準に基づく具体的な簿記処理から同会計基準の基本的思考や特徴までを学習する。</p>			

## (4) スクーリング科目

スクーリング 科目	フォローアップセッションⅠ（効果的な学び）	単位数	1単位
		担当教員	松林愛、新川綾子、水野節子
<p>学習を進めるうえでわからないことを解決し、「どうやって学べばよいか」といった疑問を学友と学習指導教員と一緒に考える。学習のモチベーションアップと一緒に図ろう。※春期科目修了試験後の7月に開催</p>			
スクーリング 科目	フォローアップセッションⅡ（実践的な学び）	単位数	1単位
		担当教員	松林愛、新川綾子、水野節子
<p>大学での効果的な学びの方法を学んだ「フォローアップセッションⅠ」に続き、本科目では大学での学びを社会で実践的に活かすための学習方法を理解し、その習得をめざす。また、自分がそれを実践するための第一歩として、具体的に何ができるかを考える。※夏期科目修了試験後の9月に開催。「フォローアップセッションⅠ」履修の如何にかかわらず履修可。</p>			
スクーリング 科目	ソーシャルワークと専門職	単位数	2単位
		担当教員	綿祐二、山本克彦、明星智美ほか
<p>社会福祉の基礎を学ぶ科目として、ソーシャルワーク実践の基礎的理解、ソーシャルワーク専門職に求められる実践力や職責の理解を図る。ソーシャルワーク専門職の実践イメージや実践に対する社会的な期待をふまえ、受講生がソーシャルワークを専門職とし、社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格取得をめざすかどうかの選択に資することを目的とする。</p>			
スクーリング 科目	日本企業の経営・会計	単位数	2単位
		担当教員	新谷 司
<p>主な学習内容は2つある。第1は、企業の会計の基礎知識を学ぶことである。企業の会計や経営分析とは何か、特に貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書とは何か、連結財務諸表とは何かを学ぶ。第2は、日本の大企業の実例から、その経営・会計と労働・管理の特徴を学ぶことである。最初に日本の経済、大企業全体の現状を学び、実際に経営分析の方法により実際の大企業を分析する演習を行う。そして新聞記事等の様々な資料を利用して大企業全体の経営と会計の特徴を学ぶ。最後に日本の大企業における労働現場の実態を説明し、労働者の労働と管理の特徴を説明する。</p>			
スクーリング 科目	社会福祉法人のマネジメントと会計	単位数	2単位
		担当教員	新谷 司
<p>学習内容は大きく2つに分かれる。第1の内容は、社会福祉法人の会計の基礎知識を学ぶことである。ここでは、社会福祉法人の会計や経営分析とは何か、特に貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書とは何かを学ぶ。加えて同計算書類を利用した経営分析の方法を学ぶ。第2の内容は、社会福祉法人の実例から、そこでの経営や経営改革の特徴を理解することである。ここでは、社会福祉法人制度や社会福祉事業者の実態、介護保険制度や介護保険事業者の経営の特徴について学ぶ。その後、特定の社会福祉法人の経営者または管理者から説明されるそれぞれの法人の経営や経営改革の特徴を学ぶ。各法人の歴史的経過、事業展開の状況、理念・経営方針、短期計画・中長期計画、経営管理システム等を学ぶ。</p>			
スクーリング 科目	福祉現場の人材養成	単位数	2単位
		担当教員	綿 祐二
<p>人材育成とは、長期的な視野に立ち、個人の成長を促進するため、必要なことを習得できる環境を与え、整えることである。福祉現場という組織において、将来的に不足する知識・技術の獲得し、福祉専門職としての適性のある人材の育成、組織の目的に貢献していく能力を開発することが重要である。福祉経営における人材育成という観点でみれば、社会保障制度が目まぐるしく変わり、1990年代の社会福祉基礎構造改革以降、大きく変化した。措置から契約へ移行した福祉現場におけるキャリア形成をキャリア理論も含めて幅広く議論していく。福祉現場は、多くの専門職がチームで利用者のケアや支援に携わる。それぞれの専門職の役割や多職種連携の具体的方法、リスクマネジメント、キャリアパスシステムの構築、福祉現場における人事考課システムの在り方、福祉現場の働き方改革、採用・評価・人材育成・報酬・労務関係など、具体的な人材マネジメントのあり方などをグループワークのディスカッションを通して学んでいく。先駆的な人材マネジメントを展開している福祉施設の事例なども紹介していく。</p> <p>●担当する教員は、福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長として27事業所を経営している教員が、その経験と知識を元に人材育成について講義を行う。</p>			
スクーリング 科目	福祉・介護のマネジメントとリーダーシップ	単位数	2単位
		担当教員	尾林和子
<p>世界を襲ったコロナパンデミックは大きく福祉の在り方を変えた。福祉国家と言われたスウェーデンの行った施策はエイジズムそのものだった。そこで行われた大きな反省を紹介しつつ、これから転換するべき福祉の在り方を問直す。日本で行われる介護サービスを提供する経営主体（法人）において必要な介護理念を再検討し、施設・事業所の目指すべき姿を考える。法人事業所で働く私たちにとっての理念はなにか、それは最終的にどのような成果を生むのか。それぞれの組織が何をできるかを考え、変わりゆく情報社会を背景とした福祉マネジメントの在り方も探る。この講義では、マネジメントの基礎とマネジメントサイクルの理解と理念に基づく経営の重要性、組織として取り組むチームワークに必要なリーダーシップとフォロワーシップのあり方を学び、チームビルディングに必要なコミュニケーションスキルへの理解を深める。さらにOJTなどの人材育成研修や職場内研究活動を能動的に取り組むスキルとして「コーチング」を学び、社会のニーズに応じたチームワークとリーダーシップの実践的なあり方を身につけ、情報社会におけるチームビルディングの創造的プロセスを学ぶ。</p>			
スクーリング 科目	ユニバーサルデザインと暮らし	単位数	2単位
		担当教員	森川美和、星川安之
<p>私たちの暮らしの中に、「ユニバーサルデザイン」という言葉が浸透し、最近各分野において、ユニバーサルデザインの視点からの設計や基準の見直しが発見になってきている。しかし、福祉分野では、その考え方が大切で、かつ応用できる工夫や製品が数多くあるにも関わらず、見過ごされてしまっているケースがある。ユニバーサルデザインおよび関連する概念を学ぶとともに、ユニバーサルデザインが人々の暮らしに与える効果・意義について考える。</p>			

スクーリング 科目	福祉とテクノロジー活用	単位数	2単位
		担当教員	巖淵 守
<p>障害のある人や高齢の人に対するコミュニケーション及び社会とのつながりの確保の重要性を学ぶ。・障害のある人や高齢の人のQOL向上として、本人の自己決定や自己選択を引き出すためのコミュニケーション支援、およびその技法となるAACについて学ぶ。・AACとは、Augmentative &amp; Alternative Communicationの略であり、拡大・代替コミュニケーションを意味する。多様なコミュニケーションを実現する手段、および生活支援のツールとしてのテクノロジーの有効性について学ぶ。・現代社会における困難の解決や軽減にテクノロジーがいかに役立つのかを確認し、ATの意義と活用法について理解する。・ATとは、Assistive Technologyの略であり、障害のある人の生活を支えるために利用される技術を指す。・特に身の回りにおける情報技術や電子技術をベースとした機器を中心に、障害のある人や高齢の人に対する各テクノロジーの活用法と工夫について考える。</p>			
スクーリング 科目	地域包括ケアシステムと未来型先端テクノロジー	単位数	2単位
		担当教員	尾林和子
<p>2020年、世界は新型コロナウイルスによるパンデミックによって大きく揺れた。日本も欧米諸国とは比較にならないものの、これまでに経験をしたことのない未知の体験におののいた。特に超少子、高齢多死社会である日本は、一歩間違えると大惨事が予想され、人々は精神的パンデミックに晒された。未知なるウィルスの感染経路は見えない。見えないものへの恐れは人々を恐怖に陥れるが、その対策として非常に役に立ったのがリモートによるケアの実践であった。私たちは近未来を予想し、そのための備えとして介護へICT、AIテクノロジーの開発研究、実装、導入を展開していたが、図らずもこのパンデミックによってICT、AIテクノロジーの必要性が顕在化した。実際に「見えないモノ」への対策としてテクノロジーが効果を発揮した。2020年10月、WHOは「人の繋がる社会を築くために社会政策としてICT、AIテクノロジーを導入せよ」と提言した。介護現場は極めてプライベートな空間であり、個々の尊厳を最大限に配慮せねばならない。個人の尊厳を保持しつつ、各地域の特性を反映させた社会システムが今、求められている。「ヒト」の手による「温もりのあるサービス」を当たり前提供できるSocialキャピタルを築く社会構築は私たちのミッションである。これからの福祉経営を担う者はテクノロジーを使いこなす知見や見識を持つことはマストである。この講座では、まず、世界からみた日本の超少子超高齢多死社会の現状とコロナ後を想定した上で、現在日本で開発されているAIを始めとする未来型先端テクノロジーの開発導入のプロセスを知る。テクノロジーリテラシーへの理解と導入の際に留意すべき点として、個人の尊厳の尊重、セキュアな配慮の方法や科学的根拠による導入の必要性を理解する。これからのそれぞれの地域においての包括的ケアを実践するために必要な未来型先端テクノロジー活用の創造することが考えられることを目指す。</p>			
スクーリング 科目	地域再生	単位数	2単位
		担当教員	雨森孝悦
<p>身近なコミュニティを含む地域の衰退は今や中山間部など条件不利地に限られない。高齢化の進展とともに、大都市部でも見られる。衰退は人口的、構造的な原因をもつため、今後さらに大きな問題となり、福祉社会の脅威となる。そのことを冷静に受け止め、理解するとともに、地域再生について具体的に考えるのが目的である。</p>			
スクーリング 科目	国際開発と貧困問題	単位数	2単位
		担当教員	斎藤千宏
<p>グローバリゼーションや規制緩和を背景として、世界では市場を通じた経済活動が主軸になり、極度の貧困状態にある人々は減少している。ビジネスを通じて貧困から抜け出せるようにしようという動きもある。他方で、経済成長が進み始めた新興国の内部での格差はむしろ拡大している。健康面に目を転じると、結核などの感染症をはじめとする疾病予防においても大きな課題が山積している。このスクーリングでは、共治（ガバナンス）に視座を置きながら、それら途上国の政府と市民社会組織とが相互作用をしながら、さらに国際社会の諸機関も関わりながら、いかにしてこうした諸課題の解決にむけて取り組んでいるのかをインドを中心に学んでいくことにする。</p>			
スクーリング 科目	社会福祉政策国際比較	単位数	2単位
		担当教員	藤森克彦
<p>本講義では、社会（福祉）政策一とりわけ社会保障制度一の国際比較を通じて、日本の生活保障の特徴と限界を理解し、今後の支え合いのあり方を考える。具体的には、貧困問題を取り上げる。現在、日本の貧困率は、主要先進国の中でアメリカに次いで高い水準にある。なぜ日本の貧困率は高いのか、を考える。上記の問題意識をベースに、社会（福祉）政策について、日本とスウェーデンの2か国間で比較する。スウェーデンの貧困率は、日本の2分の1程度である。なぜスウェーデンの貧困率は低いのか。福祉先進国とよばれるスウェーデンの社会（福祉）政策の根本にある考え方やその内容、また、なぜスウェーデン国民は高福祉・高負担を支持するのかを理解し、日本との差異を考える。その上で、日本の社会（福祉）政策の特徴と限界を考察し、今後の支え合いのあり方を考える。</p>			
スクーリング 科目	社会福祉と権利擁護	単位数	2単位
		担当教員	明星智美
<p>社会福祉の諸サービスを必要とする人々の生活実態等から、社会的排除や権利侵害の状況の理解を図り、社会福祉領域における権利擁護実践が必要とされる背景を明らかにする。また、成年後見制度や虐待防止法など、権利擁護実践のための法制度の枠組みを整理したうえで、地域における権利擁護実践のイメージの具体化を図る。グループ討議等により、権利擁護実践における専門職の役割とは何かについて、各人の考えを整理し、言語化できることをめざす。</p>			
スクーリング 科目	医療福祉システムの理論と実践	単位数	2単位
		担当教員	李 忻
<p>医療保険制度の基本的仕組みについて理解する 社会保険としての医療保険制度における保険者の役割、各保険制度の財政状況、医療保険給付の内容等について学ぶ。保険者の役割、保険制度の財政状況、保険給付の内容等の視点から、各健康保険組合の現状と問題点、協会管掌健康保険制度の現状と問題点、市町村健康保険制度の現状と問題点を理解することを目標とする。</p> <p>実践的な視点から社会福祉援助の課題を探る 高齢・障がい等により、自分の権利を自分で守れない時に、社会福祉の専門職としてどのように援助すべきか、単に施設の運営基準に従って福祉サービスを提供する、という域から脱却していなければ、良い福祉サービスの提供は決して実現できない。実践的な視点から、権利擁護・人権感覚をよく理解した福祉人材は、どのようにコンプライアンスルールに基づきながら福祉サービスを提供すべきか、について理解することを目標とする。</p>			

スクーリング 科目	医療福祉制度と暮らし	単位数	2単位
		担当教員	李 忻
<p>高齢者の医療保障の制度の仕組みについて学ぶ 加齢と医療費、生涯医療費、後期高齢者医療制度について学ぶ。後期高齢者医療制度が高齢者にとって、どのような制度であるのかについて討論する。後期高齢者医療制度と現役世代医療保険制度との関係、後期高齢者医療制度の財政的な仕組みなどを理解することを目標とする。</p> <p>福祉の総合相談を通じての社会福祉の諸制度及び福祉サービスの活用について学ぶ 福祉の総合相談は社会福祉士が中心となって、地域包括支援センターの他の専門職種をはじめ、地域の関係機関等と連携をしながら実施されている。総合相談・支援及び権利擁護の業務は、地域の高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を継続していく上で大変重要な役割を果たしている。高齢者や障がい者の日々の暮らしを支えるためには、総合相談の業務はどのように行われているのか、地域におけるネットワークの構築、虐待の現状及びその対応策、成年後見制度の活用、消費者被害の防止等について理解することを目標とする。</p>			
スクーリング 科目	社会保障の制度と課題	単位数	2単位
		担当教員	李 忻
<p>年金保険制度が果たしている所得保障の役割について学ぶ 日本の公的年金保険制度の体系、国民年金保険制度及び被用者年金保険制度の仕組みと現状、日本の公的年金保険制度の課題について理解することを目標とする。さらに、今日の社会生活において、老齢年金、障害年金を頼りに生活している人々の現状についても紹介し、公的年金保険制度が果たしている所得保障の役割を理解すると共に年金保険制度の課題について理解を深める。</p> <p>社会保障の諸制度と日本の社会経済の変遷について学ぶ 日本は1961年に国民皆保険、皆年金を実現し、本格的に社会保障の諸制度の充実、給付対象者の範囲の拡大、給付レベルの向上などが図られ、福祉国家が実現した。医療保険制度、年金保険制度をはじめとして、どのような社会経済背景の下で、その内容の充実が図られたのか、社会保障の諸制度の充実と社会経済との関係を理解すると共に、少子高齢化及び経済のグローバル化が進んでいる今日の日本においては、どのように社会保障の諸制度の再設計を行うべきか等について理解することを目標とする。</p>			
スクーリング 科目	地域福祉と災害ソーシャルワーク	単位数	2単位
		担当教員	山本克彦
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害について知るとともに、被災した地域における環境の変化や、多様な被害について理解する。</li> <li>・災害のフェーズを時系列に整理し、各場面で福祉支援を具体的に理解する。</li> <li>・災害時に顕在化する多様な生活課題について、ソーシャルワークの展開を基本として理解する。</li> <li>・災害時の多職種連携のあり方や、福祉施設等における事業継続（BCM・BCP）について理解する。</li> <li>・地域福祉の視点から防災・減災について学び、個人や組織としての役割を理解する。</li> </ul>			
スクーリング 科目	地域共生社会と地域づくり	単位数	2単位
		担当教員	渋谷篤男
<p>地域共生社会・地域福祉の考え方の中核を成す「地域づくり」は、戦後の社会福祉の発展の中で一貫して大切にされてきた。この「地域づくり」について、社会福祉制度が未成熟な時期、成熟していく過程、成熟化した時期（まだ不十分な点はあるが）で一貫して変わらない点と、大きく変化をしてきた2点に焦点をあて、十分な理解をすすめる。また、社会福祉分野の中では、「地域づくり」は社会福祉協議会の仕事といった印象が強いが、古くから施設法人等、他の社会福祉関係者も取り組みを行ってきた。地域共生社会の考え方においては、施設法人も「地域公益活動」などを含めて、福祉の視点での「地域づくり」をすすめていくことが求められている。本講義では、地域共生社会・地域福祉における「地域づくり」の理念と実践を学ぶとともに、今後の自らの活動の展開を目指して、具体的な実践方法を学ぶ。</p>			
スクーリング 科目	地域共生社会と相談支援の仕組み	単位数	2単位
		担当教員	渋谷篤男
<p>国が提唱している「地域共生社会」は、①住民の福祉活動の推進、②福祉分野の相談への柔軟な対応、③福祉分野全体、さらには関連分野との協働による相談支援の仕組みづくりなどが求められている。まず、この構想はけっして新しい理念ではなく、福祉関係者がこれまですすめてきた、長年の実践に依拠しているものであることへの理解が必要である。また、「地域共生社会」の実現に向けては今後、解決すべき課題を明確にして取り組みをすすめることも必要となる。2021年4月には、「断らない相談」の実現を目指して法改正が行われるが、各地域においては、新たな相談支援の仕組みづくりを目指し、実践を重ねることが期待される。本講義では、地域共生社会、地域福祉の理念と事例を紹介するとともに、今後の展開を目指して、具体的な実践方法を学ぶ。</p>			
スクーリング 科目	障害者政策と自立支援	単位数	2単位
		担当教員	綿 祐二
<p>障害者政策は、歴史的変遷は決して明るくない。「隔離政策」「優性思想」「差別」など多くの負の遺産が存在する。デンマーク社会省知的障害課の職員であったバンク・ミケルセン（Bank-Mikkelsen, Neils Erik1919～1990）は、1953年、親の会の要望から「知的障害者福祉政策委員会」が設置し、1958年報告書で「知的障害があってもその人は一人の人格を持っているのであり、ノーマルな人と同じように生活する権利を持つ」とノーマライゼーションの思想を確立した。このノーマライゼーションが障害者福祉の世界に大きな影響を与えたのは事実である。本講義では、障害福祉政策の歴史的変遷を追いながら、「そこにある矛盾」を議論していく。1990年代の社会福祉基礎構造改革が障害者福祉士施策に与えた影響、特に2006年施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法）の理想と現実を押しえながら、今後の障害者福祉施策を検証していく。</p> <p>●障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が講義を行い、障害者福祉現場の今日的課題についても触れていく。特に8050問題、家族の共依存、経済的共依存、権利擁護、後見について、障害者差別、インクルーシブ教育、合理的配慮などの具体的事例について検討していく。</p>			

スクーリング 科目	被災者支援と福祉防災に向けた実践演習【クラス制】	単位数	2単位
		担当教員	山本克彦、篠原辰二
<p>大規模な災害発生後、被災地からの支援のニーズは段階的に多様化し、それに伴い、支援者には幅広い知識や想像力、臨機応変に対応する力、そして広域的で多職種にわたる機関や団体、人とつながる・つなげる力が必要とされる。本スクーリングでは、他の科目でこれまで培ってきた「発災後にソーシャルワーカーとしてどう動けるか」に関する知識や技術を、自身の専門性や居住地に置き換えて、より個性をもって具体化していく。1日目は災害被災者に対する中長期的「生活支援」を中心に学び、2日目には演習を通じて、履修者が平時においても福祉防災の推進を担う力を身に付けていく。そして、受講者同士で広域的な多職種間のつながりを作り、長期的なネットワークとして構築していくことで、万が一の災害時に受講者間で組成する、あるいはお互いに支援が可能なチームへと展開させていくこと目指していく。</p>			
スクーリング 科目	多様なニーズに応える特別支援教育	単位数	2単位
		担当教員	小野尚香
<p>特別支援教育は障害や病気の状態にある子どもだけではなく、すべての子どものニーズに応える指導と支援を展開している。2007年に特別支援教育は本格的に実施され、教育現場では、福祉や心理の専門職と協働し、また地域の施設とも連携しながら、幼児期から学童期を含む子どもを対象とした取り組みを展開している。保護者支援もまた重視されている。そして今や、その支援のかたちは全人的であり包括的な指向性をもつ。さらに特別支援教育に織り込まれる構成要素には社会的脈絡があり、「サラマンカ宣言」、および国連採択の「児童の権利条約」や「障害者の権利条約」、WHO総会採択のICF（国際生活機能分類）など、子どもの人権やグローバルな動きにも敏感である。そして、子どもたちがともに育ち、ともに学ぶこと、そして未来の共生社会を意識しながら、インクルーシブ教育、基礎的環境整備、合理的配慮を具現化するための努力が重ねられている。本講義では、上記の内容を対象とする。とくに日本の現代的課題として、病気、障害、貧困、言語、文化、LGBT（SOGI）などの「いま」を取り上げ、教育現場で、またチーム学校として校内外の専門職が連携する「必要な支援」と「適切な指導」について、制度と実践を通して知識を広め、理解し、そして検討する。</p>			
スクーリング 科目	単身世帯と社会政策	単位数	2単位
		担当教員	藤森克彦
<p>単身世帯を切り口にして、日本社会の課題とその対策を考える。具体的には、単身世帯の増加の実態とその背景についてデータに基づいて理解する。また、単身世帯は、二人以上世帯に比べて、貧困、社会的孤立、要介護時の対応などの面で生活上のリスクが高い。このような生活上のリスクに対して、求められる政策—社会保障の機能強化、地域づくり、働き続けられる社会—を考える。最後に、家族の支え合いを前提に構築されてきた日本型福祉国家が、現在岐路に立っていることを認識し、今後の方向性を考える。</p>			
スクーリング 科目	多職種連携実践（IPW）と多職種連携教育（IPE）の展開	単位数	2単位
		担当教員	上山崎悦代
<p>今日のソーシャルワークを取り巻く環境は、多様化・複雑化している。また、「2040年問題」を見据えた地域包括ケアシステムの有機的な展開は、国を挙げての重要な検討課題となっている。援助の実践現場においては、これらに対応するための多角的な視点が不可欠となり、地域住民を含む多職種による連携・協働、すなわち「多職種連携実践（IPW）」が要請される。さらに、IPWを支える「多職種連携教育（IPE）」も欠かせない。一方で、IPWは万能ではない。その展開には困難を伴うことも多く、時に実践の阻害要因となる。さらに言えば、IPEの経験のないままにIPWを行わねばならないといった現状も存在する。そこで本科目では、IPW・IPEの基本的理解を獲得すると共に、受講者の多様性を活かしたIPW・IPEを実体験できる場とする。講義と演習を組み合わせながら、IPWとIPEを実践的に学び、受講者自身が今後活用し得るIPW・IPEの展開方法を習得する。</p>			
スクーリング 科目	精神障害者と福祉実践Ⅰ	単位数	2単位
		担当教員	青木聖久
<p>本科目では、統合失調症を中心にして、精神障害者のことを様々な側面から知ることを目指す。精神障害者や家族が、これまでどのようなプロセスを辿り「いま・ここに」いるのかや、いかなる社会的背景のなかで暮らしているのかについて、想像力を膨らませ、理解できるようにする。また、精神保健福祉士が、どのような魅力と可能性を有する専門職であるのかについても、第一線で活躍している者の話等を通して、理解を深める。さらに、「自分が精神保健福祉士になる・精神保健福祉士を活用する」等、様々な「自分及び自分たちができること」について考える機会とする。そして、精神障害者や家族に対する実践的な支援のあり方について学ぶことを目的とするものである。</p> <p>●精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行なう。</p>			
スクーリング 科目	精神障害者と福祉実践Ⅱ	単位数	2単位
		担当教員	田中和彦
<p>本科目は「精神障害者と福祉実践Ⅰ」の発展科目である。「精神障害者と福祉実践Ⅰ」では、精神障害者の置かれている現状と課題に対する福祉的視座からの理解、そして精神保健福祉士の実践について学んできた。本科目は、さらにウイングを広げ、メンタルヘルスの課題について理解していくとともに、メンタルヘルス課題に対するソーシャルワークがどのようにあるべきかを深めていく。そのことで、メンタルヘルス課題とそれを取り巻く社会のありようを精神保健福祉の共通的な課題として言語化していくとともに、ソーシャルワークの視点を醸成していくこと目指していく。</p>			
スクーリング 科目	精神・発達障害者の理解と共働【クラス制】	単位数	2単位
		担当教員	青木聖久
<p>2013年の障害者雇用促進法の改正により、2018年から精神障害者が、法定雇用率の算定基礎に加わるようになった。したがって、段階的に企業の法定雇用率が上昇することから、精神障害者の雇用が喫緊の課題となっている。その一方で、2019年度のハローワークにおける新規の就職件数は、精神障害者が全障害者のなかにおいて、半数以上を実質的に占めている。とはいえ、精神障害者の職場定着率は、きわめて厳しい状況にある。なお、2011年の障害者基本法の改正により、発達障害者が精神障害者に含まれるようになった。よって、精神障害者の範囲には、発達障害者、さらには、高次脳機能障害者も含んでいる。他方、近年うつ病等を患いながら、勤務を続ける者や、職場復帰を目指す者も多い。これらのことから、職場で精神・発達障害者と働くことについて、知識や技術を持つことは、重要なこととなる。また、職場管理の立場の者にとっては、法定雇用という側面のみならず、精神疾患を生み出さない会社づくり、という点からも意義深い。以上のことをふまえ、本講義では、各々の学生が主体的参加のもと、まず、テーマについて考え、事前レポートを提出することから始める。そして、グループワークで深めることによって、精神・発達障害者のニーズ把握、共働のあり方等をはかる。また、精神・発達障害を持っている者の生の声を聴く機会も設ける。これらを通して、本講義で、職場において精神・発達障害者と共に働くことの意味と意義、さらには、実践的な方法等について学ぶことを目的とする。</p> <p>●精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行なう。</p>			

スクーリング 科目	ケアマネジメント入門	単位数	2単位
		担当教員	綿 祐二
<p>ケアマネジメントの基本理念や目的を理解し、自立した生活を継続するための包括的な支援としてのケアマネジメントプロセスについて学ぶ。ケアマネジメントは、一般的に①インテーク→②アセスメント（情報収集と生活課題の分析）→③プランニング（個別介護目標の設定と計画・立案）→④サービスの実施（ケア実践）→⑤モニタリング（中間評価）→⑥サービス評価→⑦再アセスメントのプロセスを経ていく。それぞれの段階においては、それを支える理論が基盤となっている。その理論の整理をおこない、介護現場におけるそれぞれのステージの課題を抽出することが学習目標である。また、自立支援、特にクライアントの意思決定支援の具体的方法、利用者ニーズのとらえ方、福祉現場の不適切ケア、権利擁護等について学ぶ。利用者主体性の原則から考えれば、フェルトニーズ（デマンド）を重視するが、専門的視点からのノーマティブニーズをどのように反映していくかが大きな課題でもある。例えば、食事場面の「経口」か「経管」か、「安全」か「自由」か、「行動制限」と「拘束」の違い、尊厳あるケア実践とは。実際の介護現場で起こる価値観の違いを理解して、どのように多職種連携によるチームアプローチを実践していくかなど、事例を通して議論を行っていく。</p> <p>●担当する教員は、福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、その経験と知識を元にケアマネジメントについて講義を行う。</p>			
スクーリング 科目	障害者スポーツ研究	単位数	2単位
		担当教員	荒賀博志
<p>障害者にとってスポーツとは何かを考える 障害がある人こそスポーツを行うべきではないか。スポーツは、競技性だけではなく、気軽に行い、継続していくことで健康維持・増進、体力の向上につながるものである。その他にも人とつながるためのコミュニケーション手段としても非常に効果的である。障害に合わせてルールを変更したり、方法を工夫することにより、いろいろなスポーツを行うことができる。このことから障害がある人も、自分は「できる！」という自信を持つこともできると考える。本科目では、障害がある人がスポーツを通じて「生きがい」を感じ、積極的に社会参加を行えるきっかけ作りを行うことが、障害者スポーツ指導員の役割であることを理解する。</p> <p>できることを見えていますか 障害があると、どうしてもできないところを見てしまうのでは……。障害がある人がスポーツを行うときは、「できるところ」を引き出していく考え方が大切である。スポーツを通じて、障害がある人の可能性を引き出す「できるところ」を見つける目を養うことが、本科目の目的である。 ※本講義では、オンデマンド教材8講の学習も必要です。8月中旬～スクーリング当日までにならず視聴してください。</p>			
スクーリング 科目	認知症ケアと多職種連携	単位数	2単位
		担当教員	中島民恵子
<p>2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると見込まれている。認知症ケアは個性が高く、支援の方法も多様である。今後さらに増え続けることが予想されている認知症の人の「その人らしい暮らしの継続」を支えるためには、専門職間および地域の関係者との適切な連携なしでは十分に対応できなくなっている。本講義では、本人がその症状によって失いがちなその人らしさ（個性・意思・尊厳）を保ち、本人が持つ力を発揮できることを支えるために、①認知症の人の症状や特徴などの基本的理解を深め、②認知症の人を取り巻く専門職の役割や多職種で連携し支援するあり方を学ぶ。</p>			
スクーリング 科目	認知症の人と地域包括ケア【クラス制】	単位数	2単位
		担当教員	中島民恵子
<p>高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるサービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が進められている。今後さらに増え続けることが予想されている認知症の人に対して、認知症の人がたどる初期から終末期のステージに応じた地域包括ケアシステムの構築の推進は非常に重要である。本講義では、地域で認知症の人を支えるための具体的な実践方法を知り、認知症の人の特徴に応じた地域での包括的な支援体制について、共に学び考えることを目的とする。</p>			
スクーリング 科目	スクールソーシャルワークと学校現場	単位数	2単位
		担当教員	安藤健一
<p>いじめ、不登校、暴力行為、自殺などが教育現場で生じている問題状況や背景には、子どもの心の問題と複雑に絡み合った環境的な問題がある。いま、子どもたちと環境に働きかけ、それらの問題に取り組むスクールソーシャルワーカーの活躍が期待されている。本講義では、教育の場で生じている諸問題を理解し、学校という生活の場で展開されるソーシャルワークの課題について考え、子どもたちへの支援の必要性を理解する。</p>			
スクーリング 科目	子どもの貧困の現状と支援	単位数	2単位
		担当教員	後藤澄江
<p>本科目は、各種データから日本の子どもの貧困の現状や背景を「見える化」すること、また、子どもの貧困の解決を志向して実践しているゲスト講師の話や受講生同士のグループワークを交えて主体的に取り組む内容となっていること等に独自性がある。子どもの貧困は社会の持続的発展にとって、その解決が不可欠な課題である。いまの日本では、子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあり、とくに、ひとり親世帯の子ども相対的貧困率は先進国の中で最悪というデータもある。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響が追い打ちをかけている。まず、先行研究、調査データや行政統計等から、子どもの貧困の定義・現状・歴史と背景、海外との比較等を学ぶ。つぎに、施行されている「子どもの貧困対策の推進に関する法律」や様々な「子供の貧困対策」を子どもの人権保障という視点から検討するとともに、子ども食堂など全国各地での住民参加の支援活動のあり方を考える。</p>			
スクーリング 科目	司法と福祉の連携とソーシャルワーク	単位数	2単位
		担当教員	鷲野明美
<p>近年、罪に問われた高齢者、障がい者等への福祉的支援の必要性と重要性が認識され、司法と福祉の連携による支援が進められている。これに伴い、刑事司法分野等へのソーシャルワーク専門職の配置が進み、新たな領域でのソーシャルワーク実践に期待が寄せられているところである。罪に問われた人たちの社会復帰を支えるには、これら司法分野のソーシャルワーカーの実践に加え、地域で活動するソーシャルワーカー、さらには、住民、保健・医療・福祉・教育等の関係機関との連携による支援が必要不可欠である。この講義では、刑事司法および少年司法の理念と仕組み、罪に問われた人や非行少年を支える司法と福祉の連携、ならびに、様々な立場におけるソーシャルワーク実践のあり方について、ドイツにおける取り組みも参考にしながら学ぶことを目的とする。</p>			

スクーリング 科目	アディクションと生きる社会を考える【クラス制】	単位数	2単位
		担当教員	田中和彦
<p>「アディクションをもつ人とかかわりは難しい」と言われることが多くあるが、本当にそうなのだろうか。そうだとしたら、何が困難であり、私たちは何に困っているのか。そして本当に困っているのは誰なのだろうか。本科目はそのような問いを常に意識したい。2010年代に入ってから、アルコール健康障害対策基本法をはじめとする依存症に関する法制度が整備されつつあり、特にアルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症を中心に依存症対策として国や都道府県レベルで取り組まれるようになってきた。しかし、いまだ治療や支援にかかわる機関や専門職の中には、アディクションへの忌避感情が根強く残っている。繰り返される「支援者から見た」不健康な行為、アディクションをもつ人の治療や支援に対する抵抗や拒否、否認の感情に向き合う支援者たちは、「私たちがかわかって何も変わらないのではないか」という無力感にさいなまれる。本科目では、ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロの視点を用い、その行動の意味を理解する視点の獲得と、かかわり、地域におけるネットワーク形成、回復者との協働、社会政策のあり方について議論していく。そしてアディクションをもつ人と共に生きる社会のためにソーシャルワークが何をすべきかを考察する。</p>			
スクーリング 科目	基礎から学ぶ発達障害の理解と支援	単位数	2単位
		担当教員	小野尚香
<p>発達障害をめぐって、マクロレベルでも、メゾレベルでも、そして、個人や家族にかかわるミクロ（マイクロ）レベルでも、理解と支援の在り方が求められて久しい。政策として、人権が重んじられ、差別の禁止が謳われるとともに、地域の福祉施設（発達障害者支援センター、児童発達支援センター、社会福祉協議会、療育施設など）や保育・教育機関（保育園、こども園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校など）においては、発達支援、福祉の支援、教育的支援が拡充されてきた。医療機関においても認知療法など様々な療法が取り入れられている。また、家族会や当事者の会の活動もみられる。しかし、現在においても尚、発達障害をめぐる取り組みは進行形である。本講義では、健やかに暮らし生きていくという視点から、発達障害にかかわる理解と支援についての基礎を学ぶ。発達障害の課題を広くとらえるために、脳科学の知見を理解し、制度・政策とともに現場での支援方法と専門職役割の現状について事例をあげて検討する。さらに、世界にも目を向け、発達障害の取り組みについて比較研究の視点から学び、有用な支援モデルについても検討する。</p>			
スクーリング 科目	論文・レポート作成基礎Ⅰ	単位数	2単位
		担当教員	新谷 司
<p>学習内容は大きく3つに分かれる。第1に、研究計画書の書き方を学び、自己の問題意識または課題を明確にする準備作業を学ぶ。論文・レポート等を作成する場合の計画書に相当する「研究計画書」をいかなるポイントに注意して、どのように作成すべきか、について学び、合わせて研究に対する自己の問題意識または課題を明確にする準備作業を学ぶ。第2に、問題意識または課題設定に必要な不可欠な先行研究の検索及び読み方や、論証方法または調査方法として利用される量的調査・質的調査の一端を学ぶ。自己の問題意識または課題を明確にするためには、それに関連する先行研究の読み込みが必要である。どのようにして先行研究を検索して入手するのか、いかにして先行研究を読み込むのか、について学ぶ。研究における論証方法、または調査方法として利用される量的研究・質的研究の基礎を学ぶ。第3に、論理的な文書の読み方・書き方を学ぶ。論理的な文書には、正しい文法に基づいていること、適切な表現を利用すること、主張と根拠を明確にしていること、等が必要である。同文書の読み方・書き方を学ぶ。</p>			
スクーリング 科目	論文・レポート作成基礎Ⅱ	単位数	2単位
		担当教員	新谷 司
<p>学習内容は大きく2つに分かれる。第1に、論文・レポート等の作成方法について学ぶ。論文・レポート等を、いかなるポイントに注意して、どのように作成すべきか、について学ぶ。「論文・レポート作成基礎Ⅰ」で学んだ内容を復習し、どのようにして論文・レポート等を作成するのかさらに詳しく学び、また調査方法としての質的研究と量的研究についても、さらに詳しく学ぶ。第2に、「論文・レポート作成基礎Ⅱ」用の「研究計画書」を再検討して、「研究論文指導」用の「研究計画書」作成の準備を進める。「論文・レポート作成基礎Ⅱ」の履修者は、同科目用の「研究計画書」をスクーリング前の所定の期日までに作成する。担当教員は同「研究計画書」に対してコメントを提供する。履修者は、教員のコメントとスクーリング当日の学習に基づいて、「研究論文指導」用の「研究計画書」の作成の準備を進める。</p>			
スクーリング 科目	研究論文指導【履修要件あり】	単位数	4単位
		担当教員	福祉経営学部（通信教育）教員
<p>本科目は、何らかの問題意識をもち、自らテーマを定めて、それについて研究する学生を対象とした科目である。各担当教員のもとで、テーマに応じた適切な方法論、論文構成や内容について、個別にアドバイスを受けながら、最終的に論文を作成する。履修にあたっては、希望する指導教員を指定し、小論文等の課題選考（面接含む）に合格し、一定数以上の単位が修得済みであることが条件となる。</p>			
スクーリング 科目	スウェーデン研修【履修要件あり】	単位数	4単位
		担当教員	藤森克彦、訓覇法子
<p>現代社会の変容に伴って人々が遭遇する社会的事故は多様化し、生活の安全が脅かされる。私たちの生活の根幹に関わる政策が、貧困縮小や生活の安全・向上を目的とする社会政策である。社会政策を国際的視点から見ると、選別的最低限保障を基礎とする日本の社会保障制度と異なり、スウェーデンは普遍的スタンダード保障を原則とする数少ない国のひとつである。福祉国家とは何か？特に、教育、労働、家族という基本的な生活ニーズの充足という観点から、スウェーデン社会はどのように構築され、どのように機能するのか？事前学習と現地での見学ならびに見学を深めるセミナーによってスウェーデン福祉国家を考察する。同時に、スウェーデン福祉国家の生活安全保障制度を基軸として、日本の生活安全保障制度の特質とその限界性を批判的に検証する。</p>			

# 日本福祉大学通信教育部

福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科

〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 日本福祉大学 通信教育部事務室

TEL : 0569-87-2932 FAX : 0569-87-2308

E-mail : tsqa@ml.n-fukushi.ac.jp URL : <https://www.nfu.ne.jp/>